

日本語のノダに類する文末談話標識の通言語的研究：  
「思考プロセス」の観点からのアプローチ  
(平成 25 年度第二回研究会)

日時： 平成 25 年 10 月 26 日（土曜日）（午前 9 時より午後 6 時半）  
27 日（日曜日）（午前 9 時より午後 3 時半）

場所： AA 研 302 号室

報告者名： 角田三枝（AA 研共同研究員 立正大学非常勤講師）

2013 年度 第 2 回 研究会報告

参加者： 梅谷博之、海老原志穂、大塚行誠、桐生和幸（27 日のみ）、児倉徳和、  
千田俊太郎、角田太作、星泉（27 日のみ）、角田三枝

<研究会の内容>

調査報告① 梅谷博之  
「モンゴル語の調査結果」

調査報告② 海老原志穂  
「アムド・チベット語の調査結果」

調査報告③ 大塚行誠  
「ビルマ語の調査結果」

調査報告④ 桐生和幸  
「ネパール語の調査結果」

調査方法の検討（全員）

各言語における、日本語のノダに類する文末談話標識の様々な用法を調査するために、これまでにイラスト入りの調査票を 30 通りほど用意した。今回の研究会では、その調査票を使って行った調査の結果報告を 4 つの言語につ

いて行った。その上で、この調査方法の利点や改善点について検討した。

#### コンピュータ上のデータの管理（児倉徳和）

各言語におけるノダ文に相当する文末標識の用法をまとめ、また調査結果を整理しそれをメンバー間で共有するために、児倉徳和が中心になってエバーノート、グーグルスプレッドシートなどの準備を行っている。その使用方法についての報告があった。

#### <今回の研究会の成果>

これまでに準備してきた調査票を使って、それぞれ実際に調査を行ってみた。今回は4つの言語について調査報告を行った。その結果、それぞれの言語において「ノダの思考プロセス」が関係することがつかめてきた。また同様に、それぞれの言語において、特有の用法があることもわかってきた。今のところ、調査を始めたばかりなので、細かい点に関してはさらなる検討の必要がある。

実際にイラスト入りの調査票を用いた結果、一般的なインタビュー調査よりも、コンサルタントが飽きずに興味を持って調査に参加してくれたという報告があった。また、イラスト入り調査票によって、文化の違いなどの発見に至る場合もあった。

調査結果の整理、共有のための準備も着々と進んでいる。今後、時間をかけてさらに調査、研究を重ねることにより、良い成果を期待できると思われる。